

農山漁村での宿泊体験による教育効果の評価結果について（概要）

I 趣旨

文部科学省では、農山漁村での宿泊体験活動の更なる普及を図るため、これまでも、農山漁村での宿泊体験活動による教育効果評価を行ってきたが、今回は、体験活動プログラムを主なテーマに、宿泊体験活動が児童に与える教育効果について調査・分析を行った。

今後、この評価結果及び留意事項については、教育委員会及び学校現場等に対して周知する予定である。

II 調査対象

- ・平成21年「豊かな体験活動推進事業」における「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」306校

III 評価方法

（調査及び結果の整理分類）

- ・宿泊体験活動に関わった関係者が、調査票の7つの評価項目それぞれの設問についてどの程度効果を感じているか、5つの選択肢から選択。
- ・調査結果は、体験活動プログラムごとの結果、学校が所在する地域ごとの結果、宿泊先の状況による結果の区分に整理分類して集計。

（学識経験者等による分析）

- ・学識経験者、長期宿泊体験教育の専門家による委員会を設置し、調査結果の区分ごとの結果の傾向やその理由と思われる事情を討議。

IV 主な評価結果

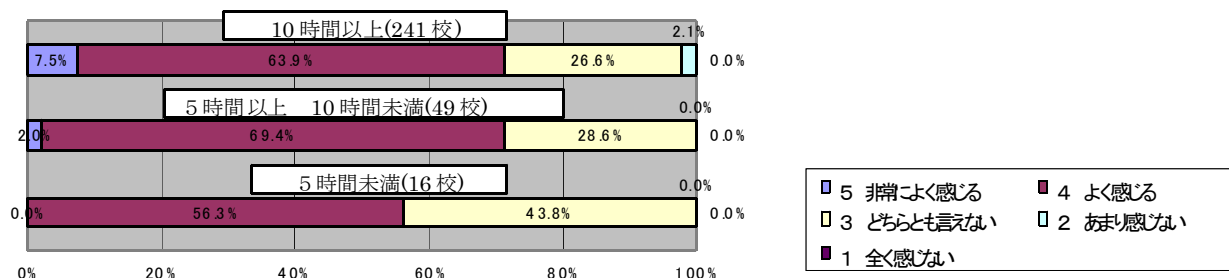
- ・「人間関係・コミュニケーション能力」、「自主性・自立心」、「マナー・モラル・心の成長」、「児童の学習意欲等」「食育」「環境教育」「人間関係の問題」といった各評価項目の多くの設問において活動時間数に応じて効果を認めることができた。
- ・体験活動プログラムのうち「児童の自治的な話合いの時間」については、全体を通じて概ね活動時間数に応じて高い効果が現れている。また、「農林漁業にかかる作業体験」については、一定のまとまった活動時間数を確保することで、より高い効果が現れている。
- ・学校が所在する地域ごとの比較では、日常生活での実体験活動の不足については、農業地域類型を問わず共通の課題となっている。

農山漁村での宿泊体験による教育効果の調査結果（抜粋）

◎自然体験活動

（児童の学習意欲等）

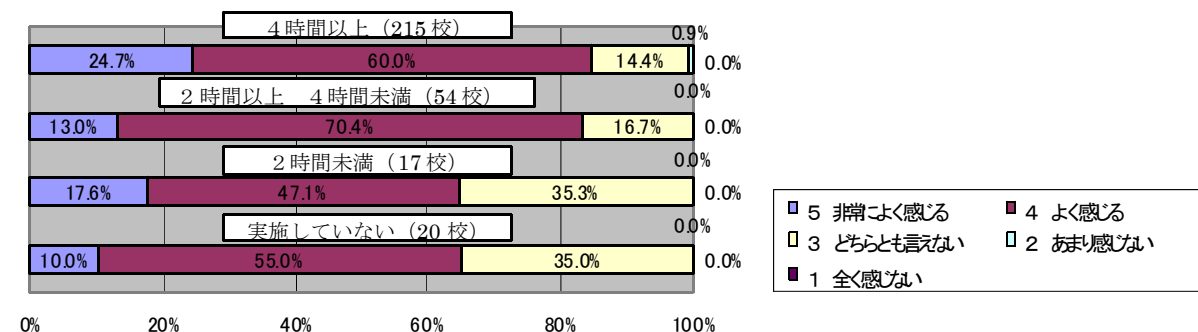
- ・活動期間中の自然体験などを通じて、周囲の事象に興味や好奇心を持ち、児童が「学ぶこと」の意義を感じるなどして、学校での授業により積極的に取り組むようになった。



◎農林漁業にかかる作業体験

（マナー・モラル・心の成長）

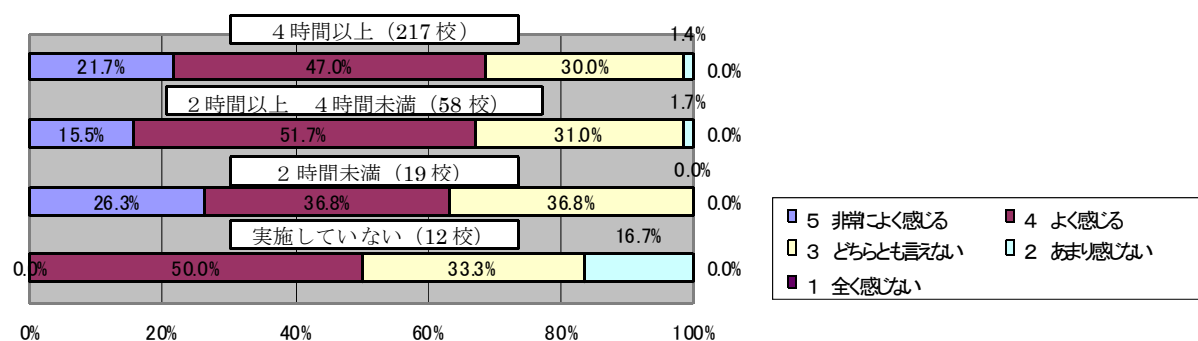
- ・きちんとあいさつをしようとする児童が増加した。



◎児童が協力し合わなければできないような課題性を持たせた活動

（マナー・モラル・心の成長）

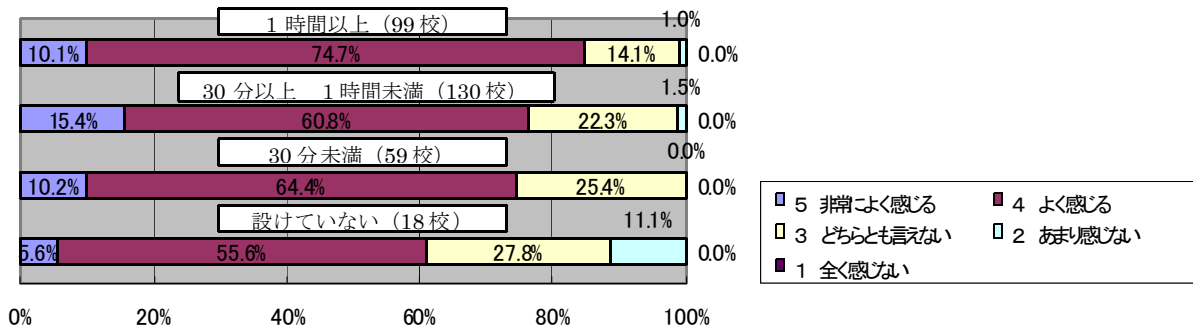
- ・保護者から、児童が家の手伝いをよくするようになったなど、成長したとの声が聞こえるようになった。



◎児童の自主的な話し合いの時間

(人間関係・コミュニケーション能力)

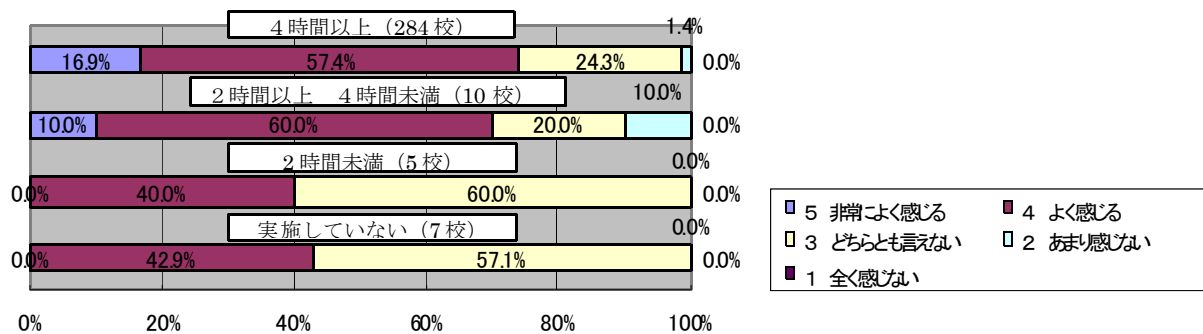
- ・相手の言うことをよく聞き、理解し合い、相手のことを思いやるようになった。



◎現地の人々との交流の時間

(自主性・自立心)

- ・進んで清掃や係の仕事などをしようとするようになった。



◎学校が所在する市区町村の農業地域類型の違い

(環境教育)

- ・児童が自然体験を行ったことで、自然への関心や環境保全に対する意識が向上した。

